

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1072000381		
法人名	有限会社 粕川カトレアホーム		
事業所名	グループホーム 粕川カトレアホーム		
所在地	前橋市粕川町深津1144-2		
自己評価作成日	平成28年8月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成28年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが残存機能の保持や向上出来るよう、また、自分の役割を持って頂くことで充実した日々をおくれるよう、広い視野をもって過不足のない支援を心掛けている。そのため、清潔で安全に配慮した住空間・季節に即したしつらい・行事・利用者の誇りや自信につながる発表や作品展示・健康保持のための体操・体に応じた訓練・清掃・買い物など暮らしを共に楽しむ生活、オムツをなるべく使用しない取り組みを行っている。又、三世代交流や祭りの参加、散歩の折のお互いの声がけ、花の日に地域の幼稚園児の訪問を受けるなど、社会とのつながりを持続する生活として地域との交流にも努めている。常駐看護師2名、嘱託医との連携を図った終末期のケアも行っている。常に本人・家族・職員・医師等一丸となった愛ある介護・誠実な介護の理念のもとに支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、明るく家庭的な居住空間と、常駐看護師2名を配置し、清潔で安心・安全面に配慮した運営をしている。利用者が継続して当たり前の暮らしができるよう、地域への行事参加(三世代交流、祭り、災害訓練等)や人的交流等、社会との繋がり支援に取り組んでいる。運営推進会議においても、有識者や地域住民(隣保班)が参加し、様々な分野のメンバーから質問、意見、要望を受け積極的にサービス向上に活かしている。また、誇りを持ち楽しみながら過ごせるよう、本人個々が有する力や特技(裁縫、調理、ピアノ、歌など)を発揮できるよう環境を整えている。食事は、食材を家庭菜園と差し入れの無農薬野菜を用い、メニューは利用者一人ひとりの好みと健康状態に応じ、品数を多く、栄養バランスも良く色彩もきれいに提供し、全員が時間をかけながら食事を味わっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員との会議等においては、ホームの理念(愛ある介護他)基本方針(地域との連携他)に基づいた介護計画を立てている。常に管理者と職員が理念や基本方針を共有・実践し、介護支援に活かしている。	管理者と職員は、毎日理念について話し合いの機会をもち、実践に反映しているかを確認している。利用者一人ひとりの特徴を理解し、限られた環境と時間の中で、家族愛のケアを意識して取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入、町内会の納涼祭・三世交代交流には招待を受け、利用者・職員共に参加。毎年6月の花の日には、幼稚園児の訪問を受け利用者也楽しみにしている。散歩の折にはお互いに声掛けを実践している。	町内会の行事には、利用者と職員が積極的に参加して、住民・子どもたちとゲームをしたり、昼食を共にしたりしている。利用者の散歩時に、老人と子供連れの女性が声をかけ事業所に遊びに訪れるなど、地域住民との触れ合う機会は多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所希望者の来所、また入所の目処が立たない人、老後への不安等の電話での相談も多く受けるが、常に誠実に対応している。相談内容によってはアドバイスもしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度推進会議を行っている。メンバーは自治会長・民生委員・地域住人・有識者・利用者・市の担当職員等、多岐に渡っており、それぞれの方から意見・アドバイスを戴き、ホームの運営に役立てている。又、家族の代表者に推進委員になってもらい、家族が来所された際に会議録を配布している。	会議には、有識者や地域住民(隣保班)も参加し様々な分野のメンバーから質問、意見、要望を受け、サービス向上に活かしている。家族が気軽に参加できるよう、事前の開催案内、会議の意義等について解かりやすく文書で周知している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議にも出席して頂いているが、日頃から連絡を取り合い、連絡事項の漏れが無い様留意している。ホーム内で迷う事項に関しては、市の担当者に相談・アドバイスを受ける様にしている。	市担当者とは、折に触れ日頃から連絡を取り、事業所の実情や利用者の経済面、暮らしぶりについて報告している。相談事項に応じて、所管担当部署を紹介していただき、適切な対応に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修には毎年参加し、研修会に参加しない時には、勉強会を実施している。参加者からは、必ず内容の報告を受け、職員全員が共通認識を持ち、拘束のない介護を実践している。玄関の施錠は、玄関横に受付窓口があり、基本的には施錠していない。	研修会に参加し、復命書の回覧やカンファレンスで職員の共有認識を図っている。利用者が外出しそうな時は、止めるのではなく、さりげなく声をかけたと一緒にいて行く等の見守り支援を大切にしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修には必ず参加し、内容の報告を受け参加しない時には勉強会を行っている。虐待防止には、普段の人間関係が大切との観点から、互いを認め合い親しむなどホーム内の雰囲気作りに心を配っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までの利用者で制度を必要とした人はいないが、研修等で制度に関する知識は持ち合わせているので、対象者が出た場合には活用出来る様に支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は入所時に家族・本人が理解できる場合には本人共に契約に関する詳細な説明を行い理解を得て、納得戴いた上で必要な項目にサインを戴いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の希望・要望は、普段の生活や、面接の折に気軽に話せる雰囲気となっており、その都度解決を図っている。又、話せない場合を考え、意見箱を設置しているが今のところ投書はない。	家族が毎月の支払い、運営推進会議、面会に来所した際に、普段の生活状況を報告、自宅にいた時の様子や意見、要望を聞いている。家族との情報交換を大切にし、出された意見は会議等で共有し反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、その他必要に応じ職員会議を開いている。意見・アイデアなど自由に発言してもらい、良いと思われるものは運営や日々の介護に役立てている。ショートミーティングは毎日行っている。年に数回親睦会を行い、職員間のコミュニケーションの充実に努めている。	代表者・管理者は、ショートミーティングや全体会議、親睦会などの機会をもち、職員間のコミュニケーションの充実と、職員の意見や提案を聞き柔軟に運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態に関しては、事前に希望を聞き取り入れている。又、日常の勤務も、一人の人に過重な負担とならぬよう配分している。職員の良いところは認め、向上心や誇りを持てる様に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に勉強会やデモンストレーションを行い、必要な知識・技術の修得・向上を目指している。特に新人の場合は、ケアに際しアドバイスを欠かさず、質の高い人材となる様その育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の会議・大会には、管理者・職員、共に必ず出席している。又、その後の報告会や会議を持ち、日々の介護に活かせる様その共有に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族との話し合いには時間をかけ、要望・希望・その他耳を傾けている。本人の望む介護を優先し不安解消に努め、信頼関係を早期に築ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望・不安なこと等にも、最初の話し合いの場で時間をかけ、耳を傾ける事により信頼関係が築けるよう努めている。又、電話での対応も、誠実・丁寧を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との話し合いの場で、何を必要としているかを、又、本人を見守る事により何が必要かを把握できるよう努めている。医療的対応が必要な場合は、提携病院があり速やかに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常を共にする事で、本人の出来る事・出来ない事等見極める事に努めている。本人が迷う時、出来ない時にはさりげなく手を貸すなど支援している。清掃・食事時など、楽しみながら生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は本人・家族と充分に過ごして頂いているが、リビングで他の利用者と共に楽しい一時を過ごされる方もおられる。本人・家族・職員の関係を常に良好に保てる様努めている。家族との情報交換も常にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に行くこと・墓参り・馴染みのお店での買物等、出来る限り希望を叶える様支援している。	彼岸には、家族に連絡をして墓参りに、墓のある場所で家族と面会したり、入居前から利用している美容院に行ったり、昔、住んでいた近所の人遊びに来たり等、継続的な交流ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時・お茶の時間・その他日常的に目配りを欠かさず、利用者同士の関係を把握するよう努めている。声かけ・テーブルの着席位置などを気配りする事により、より良い雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所した後も、問合わせや相談等には、入所時と変わる事なく誠意を持って取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各人の持っている特技や趣味を最大限に発揮できるよう取り組んでいる。歌や楽器などはお茶の時間などに披露してもらい、俳句やちぎり絵なども支援し、自信・誇りを持つ事につなげ、又、共に楽しんでいる。	職員全員が、日々の関わりのなかで声をかけ利用者の思いや意向の把握に努めている。よりよく楽しく暮らすための取り組みとして、本人が有する特技(ピアノ・楽器)や趣味(俳句・ちぎり絵)が発揮できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人への聞き取り・意向・家族への聞き取り等、時間を充分にかけ一人ひとりの全体像を把握する事に努め、ホームでの生活がより快適なものとなる様力を注いでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	絶えず日常生活に気配り・目配りする事により、現在の状況をより的確に把握することに努め、より良い介護・支援に活かせる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフとの話し合い・申し送りは、朝夕毎日行っており、本人に適した介護・支援に努めている。家族や他関係者との情報交換も密にしている。又、毎月モニタリングを行い現状に即した介護計画の立案を目指している。	利用者の生活状況や介護報告書、家族の希望などを参考にアセスメントを含め、職員全員で意見交換やカンファレンスを行っている。最終的には介護計画作成担当者がプランニングし、毎月モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り・カンファレンス・職員会議等、全て記録に残し支援に役立てている。又、職員間で情報を共有する事により、より良い介護が出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が、その家族と共に行っていた事が出来なくなった場合(墓参り・買物・その他)施設が代わって支援している。介護以外の事でも、本人が希望した場合は出来る限り叶えられる様支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他施設のケアマネージャーや地域包括支援センターの方との情報交換を行う。又、地域と交流することで地域住民の方々に利用者を認識して頂いたり、緊急時には協力して頂けるように依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでの嘱託医として、内科・外科・整形外科・歯科があるが、本人がかかりつけ医を希望した場合は、かかりつけ医の受診を支援している。	受診は、利用者のほとんどが、事業所協力医となっている。その他は、これまでのかかりつけ医となっており、家族が同行できないときは、職員が代行している。3ヶ月ごとに定期検診があり、必要に応じ家族に受診結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームは、看護師2名が常駐しており、必要に応じて対応している。又、職員に対し、看護師が情報の提供・技術支援を常に行い、介護の向上を目指している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に入院した場合も、安心して治療出来るよう必要に応じて訪問している。又、病院と情報交換し、本人の状態の把握に努め、施設での受け入れについても医師との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し終末期に入った場合でも、病院でなく施設を希望する方も多く、その場合本人・家族・医師との話し合いを密にし、出来る限り本人・家族の希望を優先している。終末期の対応もマニュアル化している。	入居時に、看取りの意向について話し合い、同意書を交わしている。重度化や終末期支援は、本人・家族の意向を踏まえ医師、職員が連携し対応しているが、重度化した場合のマニュアルは作成されていない。	看護師2名が常駐していることもあり、状況変化に対応できているが、さらに職員全員が対応方針を共有し支援できる体制づくりに取り組まれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルの作成、利用者の状態から発生しやすい事故(窒息・転倒など)に対する応急手当や対応は常に徹底している。日頃から対応の勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春秋年2回避難訓練をしている。いかに短時間で安全に利用者を避難させるか日頃から全職員で取り組んでいる。又、地域の消防署の指導・対策も受けている。地域への災害時の協力依頼している。スムーズな避難誘導が出来る様自主訓練を行っている。	2ヶ月に1回自主訓練をし防火設備(消火器、スプリンクラー、火災報知器)の点検、避難路の確保、職員の誘導方法などを実践している。地域の協力体制は、事業所に隣接している2軒家と確約がとれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活を通し、一人ひとりの性格・人柄の把握に努め、相手を認め常に人格を損ねないよう会話等に気配りしている。プライバシーに関しては、知り得た情報は外部に漏らさない様配慮している。	日常生活の中で、命令的な言葉や人前であからまさに介護するなど、本人を傷つけてしまわないよう、誇りやプライバシー確保について、常に配慮し確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話・仕草などを通じ、本人の思いや希望をくみ取る様努力している。又、会話が不自由な方は眼の動き・動作などから要望をくみ取っている。如何なる時も“相手の立場に立って”をモットーに本人の希望に添えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝夕のスタッフとの話し合い・報告を生かし、一人ひとりの気持ち・体調にあった介護支援をする事により、日々の暮らしが心地良いものとなる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みや季節に即した服装を心掛けています。耳・爪・髪の手入れも常に気配りし、清潔感にあふれた身だしなみに努め、必要に応じ化粧もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一律に食事を用意するのではなく、好み・体の状態に応じて対応している。食事やお茶の時間も、手伝いの出来る方には手伝って頂き、楽しみながらしている。	家庭菜園と差し入れの新鮮な無農薬野菜を用い、利用者一人ひとりの好みと健康状態に応じたメニューの工夫をしている。利用者個々の力を活かしながら、調理下準備やテーブルを拭く等、楽しみながら職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに対応し、普通食・きざみ食・ミキサー食等になっている。なるべく素材の持つ味・バラエティーに富んだ献立・季節感も楽しんでいただけるよう努めている。水分量も一人ひとりに対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った介助を徹底している。口腔状態は健康に関係するため、特に気を使い徹底して清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツの使用は避けるよう努力している。時間を見計らってトイレに誘導している。一人ひとりの習慣を見極めて排泄の自立に努め、本人の自信や誇りの保持につなげている。	排泄チェックシートを活用し、利用者の尿意の有無に限らず、時間を決め(午前・午後)トイレでの排泄支援に取り組み効果を上げている。ポータブルトイレは部屋に置かない方針を職員間で共有し、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に日々の食生活の中で便秘予防に良いとされる、バナナ・プルーン・納豆など定期的に提供し、又、散歩や軽い運動を欠かさない。それでも便秘の場合は、原因を確かめるよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の健康状態に添った入浴。また、誰と入りたいか・どの様に入りたいかなどの意向を聞き取り入浴を楽しみ且つ、清潔も保てるように努めている。入浴後の水分補給にも気配りをしている。入浴は、週2回午前中に行っているが希望者にはシャワー浴、清拭、足浴など随時行っている。	入浴は、週2回午前中に実施しているが、利用者のその日の希望を確認、動ける人や仲の良い人同士がゆっくり入浴し、個人的に会話のできる良い機会となっている。希望者には、シャワー浴、清拭、足浴などを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣の把握に努め、夜の安眠のために昼寝なども長くなりすぎないように配慮している。特に車椅子の方には、起きている時と横になっている時間等を配慮しながら、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の指導の下に服用して頂いている。投薬間違いの無い様に服薬トレーを作成し、確実に服用出来るようにしている。場合によって錠剤を砕いたり・水に溶かすなど工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の生活を通じ、一人ひとりの特技や趣味を発揮できる様に努めている。俳句・歌など、お茶の時間に披露していただいている。カレンダー制作・箱折りで生活に役立てるなど支援している。自信や誇りにもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を出来る限り叶えるよう支援している。買物同伴・馴染みの美容室に行く等。又、季節に応じ花見・紅葉狩りなどの外出もしている。	事業所の周辺は田園地帯で戸外へ出やすいこともあり、車椅子やシルバーカー等で散歩している。事業所の庭先にシートを敷いてお弁当を食べたり、季節に応じ花見や紅葉狩りなどの外出支援も行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さ・所持する等お金に対する理解を失わない様、小銭を自己管理できる人にはしていただいている。又、買い物同伴した際には支払する機会を作り社会性の維持に繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員が出来る訳ではないが、出来る方には制限する事なく自由に行って頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常にホームの内外を清潔にしている。季節の花を室内に飾り、又、庭で育てたり目でも楽しんでいただける様にしている。強い陽ざしや大きな物音など避けるように配慮し、穏やかな空間作りに努めている。	共用生活空間は、清掃され清潔感がある。廊下は、利用者の安全面と災害時等の誘導を考慮し一切物品は置かれていない。居間(食堂)にはピアノがあり、弾く人歌う人などが多目的に利用している。和室は、昼寝や休憩場所、遊びの場所に工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子・畳どちらの空間もあるので、各自の過ごしやすい場所で一人、又は、気の合った者同士で楽しむ事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室は特に大切に思い、好みに応じた空間作りに配慮している。本人の好む家具の持ち込み・大切にしているもののスペースを確保する事で、自分の今迄の生活の延長上にいられる様に配慮している。	馴染みの寝具や桐箆笥、家族の写真、昔勤務していた職場の記念誌等、思い出の品々が持ち込まれている。ベッドや畳など、本人が居心地よく過ごせるよう配慮し設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に安全に配慮し床には物を置かない様にしている。又、物の位置なども利用者が混乱しないようむやみに動かさず定位置を決めている。更に利用者の身体機能に合わせ、危険と思われる角にはコーナクッションなどで対策している。		